

# にほしま

第 2 3 号

M A Y / 2 0 2 0

令 和 2 年 5 月



ハワイ移民資料館  
仁保島村

〒734-0026 広島市南区仁保三丁目17-6  
LIFESTYLE MUSEUM NIHOJIMAMURA TEL&FAX 082-286-6331

ホームページ  
<https://hawaiiinfo.com>  
[www.nihojimamura.com](http://www.nihojimamura.com)



その昔、ホノルルは水田だった

## ハワイ米物語

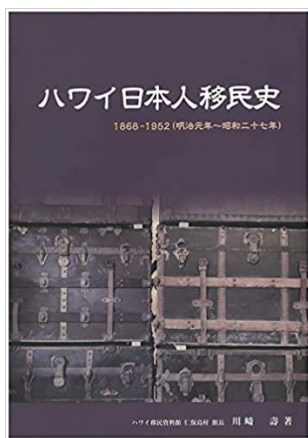


遥か彼方のハワイから日本へ、暑中見舞  
移民は常に日本を想う

当館蔵

### 発刊

語り継ぐ移民の歴史



A4.P247 定価3,800円(税抜)  
Amazonで注文できます。

「移民は棄民ではありません」  
「貧乏だから移民したわけではありません」  
あくまでも史実に基づき刻明に記述しました。  
ぜひ、ご一読下さい。

1885(明治18)年から始まったわが国とハワイ王国との移民契約。

渡航費用・住居・治療費・炊事用薪炭無料の他に、3年間人頭税を免除するという好条件であった。中でも白米は5セント以下で支給、3度の飯に白米が腹いっぱい食べられるとあって移民たちはたとえようもなく喜んだ。

やがて生活が落ち着くにつれて、支給される米がパサパサ冷めたらまずいと不満が出てきた。ならば日本の米を作ろうと水田栽培に乗り出したものの、地理的条件の良いところは全て先行移民の支那人が占め、その上組合を作って団結し日本人が参入する余地がなかった。それでも旨い米が食べたい、その一心から残された悪条件の土地を水田に改良、時間をかけて徐々に耕作面積を増やしていった。努力は実りついに支那人を抜いて日本人が米作の中心に躍り出た。

ところが、将来は前途洋々と見えた米作りは、アメリカ本土カリフォルニア米という手強い相手が現れて――。

## ハワイの米作り

1857年、ロイヤル・ハワイアン農会はアメリカよりもたらされた南カロライナ州産の種籾の栽培を試み、翌年少量ながら収穫を得た。タロ芋栽培と同様の水田で育ち手間もかからないことや、栄養価も高いことが実証されるとタロ芋に次ぐハワイの第2の自給食糧として注目されたちまち全島へ拡がることになった。

当初、稲作の担い手は支那人であったが、日本人移民が増加するにつれて次第に日本人がその中心を占めるようになった。同時に日本米種が加わり、支那米、ハワイ(アメリカ)米の3類が生産された。支那米は主に米国本土に輸出され、日本米、ハワイ米がハワイで消費という住み分けになった。

米の栽培方法は水田耕法で日本と変わらず、タロ芋畑と隣どうし仲良く同居という風景が見られた。しかし、水田には水利が必要なことから栽培地域が限定され、ハワイ農林局のクラウス博士は自ら品種を改良した陸稲の栽培を推奨した。

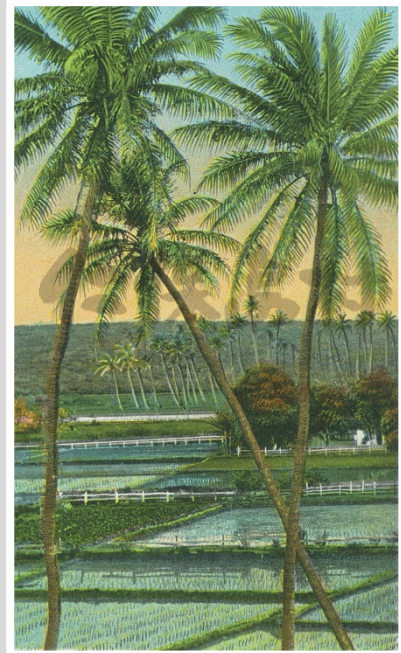
1905(明治38)年、ハワイ島コナ・ケアラケア在留の熊本県人福永虎吉は日本から陸稲の種を輸入し、珈琲園に間作して2年間第3作まで栽培を試みたが、いずれも実入り不十分となり米の生産を断念。陸稲は顧みられなくなった。

台風や早魃<sup>かんばつ</sup>など自然災害が少ないこと、温暖な気候、良質な土壌に恵まれ、1年間に2毛作、2年間で5毛作と年間を通じて栽培が可能であった。しかし、多毛作にすると収穫量が落ちること、地力の衰え、肥料も多肥となることから1920(大正9)年頃より年1回が主流となった。

稲作の天敵は鳥害であった。マレー半島よりペットとして輸入した雀に似た全身黒茶色の小鳥が繁殖。農家はこの鳥追いに鉄砲などで追い払うなど自衛策に出費を強いられた。

1928(昭和3)年、オアフ島で異常繁殖したこれらの鳥が支那人経営の水田500エーカーの稲穂におそいかかり全滅。翌年耕作放棄地となった。この”事件”は、米農家に衝撃を与え、これを境にオアフ島の米栽培は、これを境に衰退した。

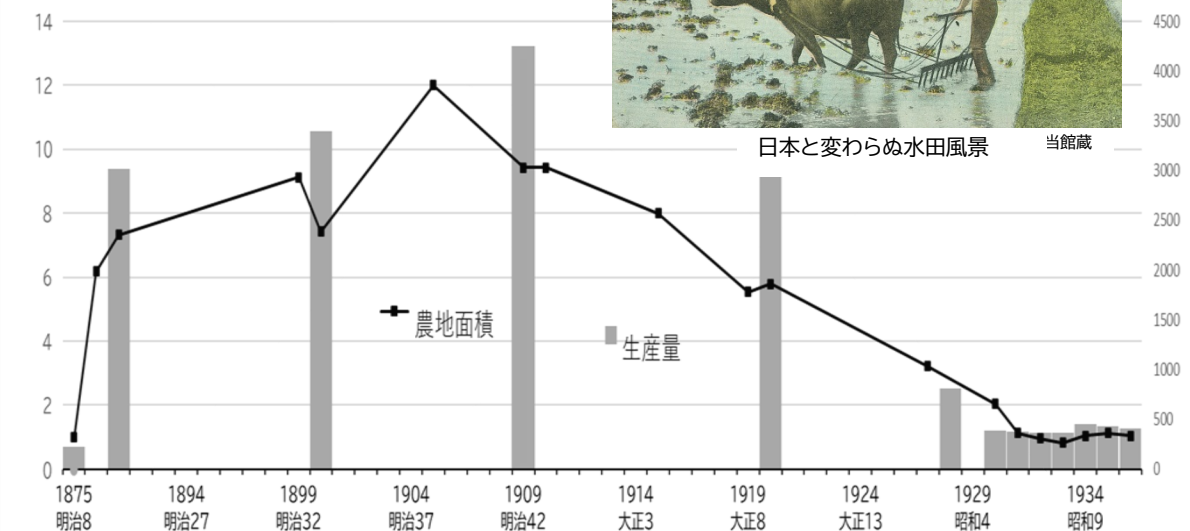
ハワイにおける米作の全盛期は1900～10年代でカウアイ島が生産の拠点となった。1915(大正4)年以降から日本人が生産者の大半を占めた。



隣はタロイモ畑

当館蔵

面積  
千ヘクタール) 農地面積の推移と生産量



日本と変わらぬ水田風景

当館蔵



# 米の生産にかかる収支費

1930~31(昭和5~6)年

プラウ労働(9人役・旧1.5ドル)	13.50
田植労働 9人役	13.50
田草取 7人役	10.50
畔草刈その他 5人役	7.50
稲刈り 12人役	10.50
鳥追い 7人役	18.00
前項労働者食料費 49人役	25.00
肥料代ボーンミール 5俵	17.00
馬糧	7.00
雑費	5.00
精米・精米までの運搬費 1俵43セント	15.05
借地料・税金	30.00
合計	172ドル55セント
1俵100斤あたりの原価	4.93ドル

# ハワイとアメリカ本土の米作り比較

1937(昭和14)年 日布時事布哇年鑑

	カウアイ	カリフォルニア (バツ郡)
農地の形態	借地 ほぼ100%	借地 2/3 地主 1/3
農園の規模(エーカー)	10.30	154.00
収穫量/エーカー(袋)	23.20	35.80
労力費/エーカー(ドル)	85.57	12.22
原料費/エーカー(ドル)	18.52	11.12
総生産費/エーカー(ドル)	143.70	39.48
収入/エーカー(ドル)	131.43	53.26
比較損益/エーカー(ドル)	△12.31	13.78

# 米の主要産地となったカウアイ島の統計

1932-33(昭和7-8)日布時事布哇年鑑

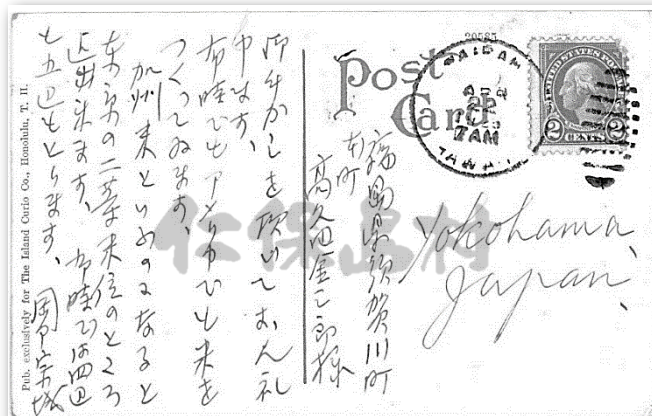
西部地区ワイメア・ハナペペ・ナヴリヴェリ	7~80エーカー	
東部地区ハナレイ・コオラウ・アナホフ・ワイルアとカピア	1,451エーカー	
	日本人	支那人
耕作面積	890	461
耕作農家戸数	92	22

# 植え付けと収穫

	植え付け時期	収穫時期	育成期間
支那米	3月中旬	8月中旬	150日
日本米	6月中旬	9月中旬	120日

# ISLAND OF KAUAI

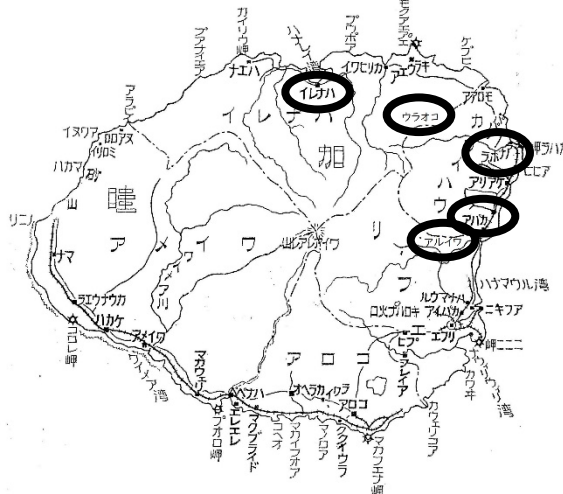
カウアイ島の米所  
島の東北部に集中



当館蔵

# 布哇通信

ハワイやアメリカでも米を作っています。  
ハワイ(アメリカ)米は東京では2等米くらいです。  
ハワイでは2年間で4~5回収穫できます。



**農業家の福音**  
**新發明肥料提供**  
米國各地の農事試験場及斯界の諸名家並に布哇各地方の農業家が實驗の上其効果の偉大なるを確証せる  
**最新化學の産める**

**肥料之素**

新發明細菌培養物(原名ゾイタミチ)  
無代進呈 和英兩文使用説明書はがきに申請次第送呈、特に此肥料の特長とすは之を施したる作物が例令一二ヶ月の早稲に過るも低給養々として其發育を停止する事なきは實驗家の等々として其發育を改良せられ、故に諸君は須らく本肥料を用ひて農業を改良せられ、  
①一時に多量の御注文又は地方團體の御注文に對しては特別の内規あり  
②布哇全島の所々の各商店及ホテルの各卸賣商店にて販賣す

布哇總代理店  
米領布哇ホテル、市郵函七七四  
株式會社 **布哇農産商會**

**人造肥料値上廣告**  
從來各島の農業家諸君より御下命の榮を賜り居り候肥料は今原料の騰貴により製造元に於て左の通り値上致し候間左様御承知度候  
一噸に付金五十八元  
一袋に付金五元七角五分  
但し一袋に付金五元七角五分  
大正八年二月十五日  
株式會社 **布哇農産商會**  
布哇肥料株式會社代理店販賣  
市郵函七七四

日布時事 1919(大正8) 資料①

Factory at  
IWILEI  
TEL. 1440

Office  
Queen St.  
TEL. 2772

**BRANDS**  
TRADE  
**HAWFERCO**  
MARK  
ARE THE BEST

日本人農作者に謹告す  
布哇各島の土壌に鑑み製造したるは本社發賣の人造肥料なり故に諸君は勿論野菜、果樹、水田、庭園の植物等何れに施すも其効大なり

**布哇肥料會社**

製造所 ホテル、市郵函七七四  
事務所 タイン街一六五番電話二七三〇

布哇日本人年鑑第10回  
布哇新報社

